旧ユーゴ・親子隊のポシェット配布活動から

ニュースリーズ・アルプ

輝き合った幼い瞳

「早く自分の家に帰れる日を」

被災地で収容されている難民たちに、現地の子たちが交流する日本の小・中学生、ハンカチ等プレゼント（ゾウ・ウィーン）

オシエク市内を流れるドラバ川。3年前の時点では、この川の対岸（写真右）からセルビア勢力が進攻してきた

ポシェットに入っていたぬいぐるみを大事そうに抱くイロニーの子供（オシエクの修道院で）

市内のあちこちに、戦禍の爪痕がみられる（オシエク）

「これ、あげる」。折り紙で作ったツルや風船を差し出す日本の子供（チェピン・集団収容センターで）

ポシェットを手渡されると、子供たちは早速、中身を取り出した。学用品、がん具……。自信ぱくに見せ合う（オシエク・個別訪問）

限りない優しさをありがとう

ポシェットを贈ってくれた子供たちへ

スザナ・ブルコビチ

親しい状況の中で、優しい言葉と支え合う姿勢とこうした子供たちに代わって高潔の心情を表白えたいというこに感謝の意を表したいのです。

私たちはいつまでも、この「人への道徳」、人間の愛しさを忘れないように、と教えています。

あなたたちはまるでのようなクリストフ、ペーター、ペーター、私はそう思っています。

「いやきれい！」

「悲しみの中で！」

ブルコビチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ・ボスニア・ヘルツェゴビナ・ボスニア・ヘルツェゴビナ